

林横浜市長が名誉顧問ご就任

横浜日独協会の名誉顧問(新設)に林 文子横浜市長が就任されました。

林名誉顧問の任期はご承諾日(本年2月15日)から、現在の市長任期である来年8月29日までです。日独交流に深い関心をお持ちの現役市長が協会名誉顧問就任を快諾くださったことは誠に有難く、喜ばしい限りです。

当協会の設立は、一昨年2月シュタンツェル・ドイツ大使が林市長を訪問の際、国際都市横浜に日独協会を新設すべしとの合意に端を発します。同年10月の設立総会、昨年7月の設立記念演奏会には市長から心温まるお祝いのメッセージを戴き、昨年9月フランクフルト市ロート市長歓迎レセプションでは横浜市との共催者として歓迎の辞を述べる機会をお与えくださいました。また昨年10月ナビオス横浜で開催の全国日独協会連合会総会では、歓迎のお言葉の中で当協会の講演会活動などに触れ、今後の活動に期待を寄せて下さいました。このような林市長の暖かいご激励に応えご期待に沿えるよう、横浜市などと連携を密にして日独交流を進めて参りましょう。

総会案内

第3回総会を開催します。多くの会員の皆様のご出席をお願い致します。

日時 5月19日(土) 14:00~15:00

会場 横浜ワールドポーターズ6階会議室3

議題 2011年度活動状況並びに決算報告

2012年度事業計画並びに収支予算案

役員選出

その他

年会費納入のお願い

4月より新年度になりました。

年会費 個人会員 3,000円

家族会員 1,500円

銀行口座 横浜銀行横浜駅前支店(店番:383)

普通預金口座 6052634

横浜日独協会(ヨコハマニチドクキョウカイ)

詳しくは会報に同封しております案内をご参照下さい。

体験的ドイツ人論

横浜日独協会 会長 早瀬 勇

「ドイツ人って、どんな人たち?」と訊かれても、なかなか一口では答えられませんが、先日地元の講演会でドイツ人についてお話しする機会がありましたので、ここに再録してご笑覧に供します。

(1) 第二次大戦の敗戦国が今日の隆盛に至る道のり

今ドイツは、ギリシャ等の債務問題・EU財政規律で、EUだけでなく世界の脚光を浴びています。国連では未だに敗戦国扱いのドイツが(日本も同様)第二次世界大戦後なぜこのように世界をリードする国になったのでしょうか。象徴的な出来事を新聞の見出しのように拾って見ましょう。

・米ソ冷戦で西側はドイツの工業力を必要とした。禁固12年で投獄されたA級戦犯クルップ氏(兵器産業クルップ財閥の当主)が1年半で釈放されクルップ製鉄が復活。

・戦後歴代の独仏両国首脳が協調。R. シューマン仏外相の献身的努力で石炭鉄鋼共同体成立、長年の独仏抗争の火種である石炭と鉄鋼が欧州各国の共同管理に。(遡れば R. Coudenhove-Kalergi の「パン・ヨーロッパ」1923)。

・経済の奇跡。Made in West-Germany の快進撃。労使の共同決定権(Mitbestimmung)は両刃の剣。自国の労働力だけでは不足でイタリア、トルコ、ギリシャ等から外人労働者が流れ込む。

・世界の硬貨ドイツマルクでソ連のゴルビーから東ドイツを「買った」コール首相。最強通貨DMを捨ててまでEUの中核になりたかった西ドイツ。EUの拡大。共通通貨ユーロ圏の形成。ユーロ安で積み上がるドイツの黒字。国連安保理常理事国を目指す。東西完全統合は何時の事か?

・“東独出身”の辣腕メルケルはCDUに入党“コールの娘”に。Leipzig 大学で物理を専攻。福島原発を利用、変わり身早く原発離脱宣言。

・ギリシャでは、紙屑同然だったドラクマが信頼できるユーロに変身。ユーロ建てギリシャ国債が売れに売れて、「さー、オリンピックだ!」。予算の倍を使い果たす。

・ドイツは再生可能エネルギーを猛勉強、「北風と太陽」に活路。バイオマスを含めても総電力量の16%、太陽光発電はまだ3%台(2009)。陽当り悪し北の国。(4頁へ続く)

法人会員

株式会社文芸社

ウインクレル株式会社

ポッシュ株式会社

フェリス女学院大学

モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合

株式会社テレビ神奈川

2月例会

「ドイツとEU」元南ドイツ新聞特派員

G. ヒールシャーさんの講演を聞いて

会員 山口 純史



(山口純史氏)

この事を知り大変驚きを覚えました。ヒルシャーさんは大変流暢な日本語でEUの歴史、現在の問題、原発問題、日本の政治問題等非常に多岐な事柄に触れられ大いに参考になりました。以下、ヒルシャーさんが講演された内容をまとめてみました。



(講演される Gebhard Hielscher 氏)

ナポレオンやビスマルクの時代から続いたドイツとフランスの戦争が第二次大戦で集結し、これまで敵同士であった両国が欧州の平和の為に過去を清算し平和な欧州を作ろうと努力を始めた。当時の戦略産業であった鉄鋼と石炭の共同市場を作ろうとし、フランスの外相シューマンが音頭を取り、ドイツのみならずイタリー及びベネルックス3国(オランダ、ベルギーおよびルクセンブルグ)の6か国で1951年に欧州石炭鉄鋼共同体が発足した。これが母体となり、マースリヒト条約で欧州共同体となり欧州連合(EU)へと発展し通貨統合も果たした。現在27か国5億人を擁する大きなEUとなった。現在、ギリシャの債務問題が大きくクローズアップされているが、西ドイツが東ドイツを吸収したときにかかった費用位で済むはずなので峠を越えて終息に向かうと思われる。ギリシャは欧州の文化発祥の地という側面があり欧州の象徴的存在なのでドイツはギリシャを支援すると思う。

ヒルシャーさんは原発問題に触れ、ドイツは2000年ころから原発依存から徐々に代替エネルギー転換が進み、10年間で30%原発依存から現在20%以下まで低下してきた。福島第一原発事故の後首相のメルケルさんは産業界から電力のコストアップになるという理由で抵抗のあった原発を廃絶する決定をした。スイスおよびイタリーも同様の決定をした。フランスは原発を引き続き推進しているが、世の中の流れは脱原発に向かっており、もし、サルコジ大統領が今年の選挙で再選されなければフランスも脱原発に動く可能性がある。

(2)

今後EUは2013年にメンバーに加えるが、今、イスラム教の大国となったトルコをメンバーに入れるか否かで協議をしている。他の東欧諸国も条件を整えばEUに入ることはある。又、ヒルシャーさんは日本の世襲制議員はドイツではほとんど例がなく如何なものかと疑問を持たれ、日本のマスコミは新聞社が巨大でTV局も抱えているので、発行部数が一桁少ないドイツの新聞と比べて影響力がある等、話が尽きないほど幅広い話題を提供してくれ時間切れで例会は終了しました。大変、有意義で楽しく過ごさせて頂きました。

フランクフルト独日協会と提携協定で調印へ

当協会は近くフランクフルト・アム・マイン市にある独日協会と協力・提携関係に入ります。

さる4月6日、フランクフルト独日協会(会長フォルカ・ゲンプト氏)のクノーブラオホ事務局長を一つ橋の如水会館にお迎えしJ D G Yから会長はじめ役員4名が出席して、両協会できねてから協議中の協力協定の案文で合意しました。今後双方の機関決定を経て調印の運びとなります。

同協力協定は、昨年横浜市とフランクフルト市間で締結調印された都市連携協定の民間版であり、発展性に富む両市の草の根交流を今後協力して進める基本合意をうたったものです。

調印式は、来る7月2日(月)フランクフルト独日協会の定例会合に合わせ、両協会役員・会員の参加希望者、横浜市フランクフルト駐在員が立ち会い、来賓にフランクフルト市幹部や日本国フランクフルト総領事をお招きして執り行われます。協定書には両協会のゲンプト、早瀬両会長が署名しますが、参加役員・会員の代表にも立会人としてご署名いただくことを計画中です。またテレビ神奈川が会場取材する予定で、調印式の模様は9月8~9日テレビ神奈川開局40周年特別番組『明日の地球と子供たち』で放映の予定です。(早瀬)

tvk(テレビ神奈川)の番組制作への協力(2)

前号でお知らせ致しました、「環境先進国ドイツの旅ー地球を守る命の森」取材同行ツアーについて、打合せを続けておりましたが、一般参加を募る条件が整わず、神奈川テレビに横浜日独協会が協力することと成りました。即ちツアー募集は行わない方向です。

上段に掲載の早瀬会長のメッセージにありますように7月2日には、フランクフルトでフランクフルト独日協会との提携協定調印式が予定されています。

その前後、シュヴァルツヴァルト地域を中心に、フライブルク大学、カールスルーヘ大学・工業研究所等を訪問し環境に関する先進技術研究や現実の対応を見聞する予定です。テレビ局の取材の関係もあり詳細はこれから決定の運びです。調印式出席も合わせてご関心をお持ちの方は事務局にご連絡下さい。

3月例会「ボッシュの企業理念」を聞いて

会員 木村 哲三



(木村哲三氏)

講演の冒頭、スクリーンに写しだされたのは本日の講師、ボッシュ(株)横浜事業所の田上所長とレーサーの近藤真彦氏との対談風景でした。車の免許も運転歴もない私にとって双方

のやりとりが内燃機関燃料の噴射システムや代替駆動コンセプトなど専門的なため少々難解なものでした。

続いて田上所長の講演に移りましたが、何と昨年、日本進出100周年(本国で125周年)という歴史のある会社で、創業者ロバート・ボッシュの経営理念が脈々と受け継がれ、事業構成が中核の自動車機器テクノロジーの他に産業機器テクノロジーや電動工具などの消費財・建築関連テクノロジーとグローバル規模で革新の技術とサービスを提供し続けている会社である事を知りました。また会社紹介でボッシュグループの規模の大きさは、2010年の従業員数28万人、売上高473億ユーロで、このうち研究開発費に38億ユーロを投資しており実に世界の150カ国に事業展開、人々に生活の質の向上と循環型の持続的環境社会の創出に寄与しているという説明があり、その自負を感じ取りました。私が意外に思ったのは自動車や身近な電動工具だけではなく医薬品、食品、製菓産業向けの加工や包装ラインの専門サプライヤーである事、また建設および農業分野向けの移動機器システムの提供、さらにセキュリティシステムや住宅機器まで広い分野に亘って日本の産業界にも持続的に貢献している事でした。

この様にグローバルに発展し続ける鍵はボッシュの企業統治と株主の構造に裏付けられるという説明に納得がいききました。即ち非営利組織である公益法人「ロバート・ボッシュ財団」と創業のボッシュ家が株式を所有し、共同経営者が株主の事業機能を代行するという資本と経営を分離した独自の企業形態にある事でした。自主独立、財務上の独立性保持、社会奉仕という創業者の哲学を実践してきた証しだろーと思えました。



(交流会でも熱心に語る田上所長)

最後の所長の経験および所感のお話の中で私が一番、実感したのは「自己主張」でした。グローバルなビジネスの世界では、とても重要な事だと感じました。

これがないと信頼関係が生まれず、誤解が生じる可能性も大きい事はもったもなことでしょう。いみじくも昨年3月例会の講演で講師のドイツ在住28年の作家、川口マーン恵美さんが言われた言葉を思い出しました。日本に必要なのは「主張力」、主張のない国は生き残れないと。田上所長の所感と相通ずるものがありました。田上所長がボッシュに入社されて良かった点として一多様な文化を受け入れ、フレキシビリティ性を体験できた事一と話された根拠には、横浜事業所には25~30ヶ国の国籍の方が25%も在籍され、共に働いておられる事で理解出来ました。私にとって大変有意義な時間を過ごせた事に感謝します。

根岸英一博士特別講演会案内

神奈川県ご出身で2010年ノーベル化学賞を受賞された根岸英一博士を横浜にお迎えして下記講演会が当協会の後援で開催されます。

(記)

講師：2010年ノーベル化学賞受賞

根岸英一博士

米国パデュー大学特別教授

独立行政法人・科学技術振興機構 総括研究主監、

演 題：『夢を持ち続けよう-----』

ノーベル賞受賞に至るまでと今後の科学技術研究』

日時：2012(平成24)年5月24日(木)

11時より12時半まで

会場：横浜市開港記念会館講堂(横浜市中区本町1丁目6番地)

電話：045-201-0708

アクセス：・東急東横線乗り入れ・みなとみらい線「日本大通り駅」出口1から徒歩1~2分
・横浜市営地下鉄「関内」駅出口1から徒歩約10分

・横浜市営バス「本町一丁目」下車徒歩1分

主催：如水会横浜支部・蔵前工業会神奈川県支部
後 援：横浜市、横浜日米協会、横浜日独協会
お申し込み：はがき、FAX またはイー・メールに住所・氏名・連絡方法・講演名を書き、次のあて先にお申し込み下さい。先着100名様まで。

あて先：如水会横浜支部事務局・株式会社ともクリエイションズ 担当玉川

〒231-0004 横浜市中区元浜町

3-21-2 ヘリオス関内ビル4階

FAX:045-226-3476

メールアドレス:tamagawa@tomocre.com

参加費：¥1,000 (当日受付で現金をお支払い下さい)。その他：10:30開場(受付・参加費支払い・自由席)

お申し込みの際は横浜日独協会会員である旨申し出て下さい。

(1頁よりの続き)

(2)「ドイツ人」と言っても百人百様——どこのドイツ?

・対照的なPreussenとBayern王国。ビールは味も何千種。
 ・だがドイツ国民の共通項は：◎堅実、忠誠心、勤勉、規則遵守、吝嗇に近い節約、親切心。×頑固なまでの自己主張(強固な意志)、柔軟性とimagination不足(決定に忠実)、ファッションにあまり価値をおかず(質実剛健、機能重視の裏返し)

・「住」にこだわる北国の人。節約家も壁紙等には出費惜しまず。貯めて貯めて家作れ(Spare, spare! Haesle baue!)
 ・順番は住・衣・食? 虚しいブランドより機能と耐久性。ゴミは日本の1/10? ドイツ人のお皿は食後もキレイ!
 ・風土と民族性は関係あるが、モンスーン・砂漠・牧場(和辻)、狩猟民族と農耕民族(梅棹)で今のドイツ人を分析は困難。時代や混血で変わる欧州の人々。

・パン・ヨーロッパ(EEC/EU)が揉み解す固いドイツ魂。多く聞かれる「私は欧州人(Ich bin Europaeer.)」

・30年戦争で無茶苦茶にされたドイツ。新旧教の対立。隣接国への猜疑心が残ったのは当然。鎖国島人の性善説と対照的。民族浄化は万人の心の底に。

・自己責任の国：立て看板の“禁止(Verboten)”は「絶対ダメ!」、Vorsicht!(注意!)なら「自己責任で」。未成年の事故は親の責任。道路の白線が責任や保険金を決定。規則さえ守ればドイツは“天国”。

・優れた日本の義務教育——国民の理解力の底上げ。「格差」にも国の格差。機会均等はドイツにあるか? 小4で人生仕分け。猛烈教師がいない公立小学校。だがアップレなAbitur制度(ギムナジウム卒業試験兼大学入学資格制度)
 = 一旦社会に出て、学費を貯めてから、必要と感じた科目を大学で学ぶ。Abiturだけでも出世。

・まだ残っているマイスター精神。だがIT化で中高年親方に危機。

・ドイツにもあった「ゆとり教育?」—反権威教育(Antiautoritaere Erziehung, A.S. Neill 1969)。背後に反ナチスの影。過度の自由・先生も父親も権威不足。この弊害を正す“規律・節度の勧め”(Lob der Disziplin, B. Boeb 2006)
 = 愛と権威で男子の訓練を! 兵役義務や市民奉仕の代替として青年男子に奉仕義務(Pflichtdienst)を! それで社会のリーダーに必要なHilfsbereitschaft(弱者への優しさ・友情)が備わる。女性は本々母性、生まれながらhilfsbereit。Boeb先生(エリート校の校長だった)は中高生にアルコール検査もするが、米国テキサス州立校での警察犬で麻薬を探させ即刻処罰する“ゼロ・トレランス”とは似て非。Boeb先生の教育方針には青少年への愛情と期待がベースにある。

・Boeb先生は、小学校でも午後授業すべし、と主張。理由は「溺愛する母親から男の子を守れ!」日本の猫可愛がりはドイツでは猿可愛がり(Affenliebe)。

・サービス業が苦手? お客の鼻先で“Geschlossen!”(閉店です!)。レストランでボーイを呼び止めようとしても、「すぐ同僚が来ます」と立ち去る。しかしテーブルごとの請負制だと解けると腹も立たない。自分が席を替ればいいだけの事。

(右上に続く)

・日本は、150年以上にわたりドイツから多くを学び、輝かしい友好関係を保っている。日独とも技術、芸術など広い分野で世界をリードする国民だ。

・日本人の優しさ、美しい自然。だが一歩外国に出れば「沈黙は金ならず」。発言しない人間は、意見の無い、思考力の無い人間とみなされる。外人と交渉し誤解を解く説得力・胆力が必要。

中学・高校でもっとdebate教育を!(了)

行事予定

①4月例会

「麒麟横浜ビアビレッジ」見学&講演
 講師 麒麟ビール広報部 山本武司氏

日時 4月7日(土) 14:00~

会場 麒麟横浜ビアビレッジ

②定時総会

日時 5月19日(土) 14:00~

詳細は1頁参照下さい

③5月例会

講演会「芥川龍之介の世界」

講師 宮坂覺フェリス女学院大学学長

日時 5月19日(土) 15:00

会場 横浜ワールドポーターズ(総会と同じ会場)

会費 1,000円

(終了後交流会会費500円を予定)

④6月例会

映画会「マラー：君に捧げるアダージョ」

お話：早瀬勇会長(第3号会報の会長コラム参照)

日時 6月9日(土) 15:00~

会場 横浜ワールドポーターズ6階会議室3

会費 500円

⑤7月例会

「横浜港クルーズと茶話会(ホテルニューグランド)」

日時 7月21日(土)

14:20~15:20

山下公園で乗下船、1時間港内クルージング

会費 1,500円

15:30~ 茶話会(於：イル・ジャルディーノ)

会費 1,500円

編集後記

林市長の名誉顧問ご就任、フランクフルト独日協会との連携、テレビ神奈川の取材協力等次々と新しい動きをお伝えする事は会報の編集担当として嬉しくも、正確にスピーディーにお伝えする責任を強く感じています。今月号は編集発行が遅れましたが皆様のご協力で充実した内容になっていると思います。会報についてのご感想ご意見をお寄せ下さい

(大久保)

横浜日独協会ホームページ

URL:<http://jdgy.sub.jp/index.htm>